

特集

津山ジュニアオーケストラ 第1回定期演奏会客演指揮者 インタビュー



平成28年4月に津山文化センターを拠点に活動する「津山ジュニアオーケストラ」が誕生しました。

平成29年11月には、第10回津山国際総合音楽祭で初演コンサートを開催し、息の合った迫力ある演奏で観客を魅了しました。現在、第1回定期演奏会開催に向けて、小学生から大学生までの音楽好きな団員で日々練習に励んでいます。

今回は、第1回定期演奏会の客演指揮者を務めることになったギオルギ・バブアゼ氏に、お話を伺いました。

＜指揮／ヴァイオリン＞



ギオルギ・バブアゼ
(George Babuadze)

【プロフィール】

ジョージア（旧グルジア）のトビリシ出身。国立トビリシ音楽院でヴァイオリンをシウカシュヴィリ教授に師事。また在学中よりモスクワでボロディン弦楽四重奏団のベルリンスキー氏に弦楽四重奏を学ぶ。卒業後は研究科を経て大学院に進み、指揮法をデミトリアディ氏に師事。同時に1988年より2年間バトゥミ市交響楽団の指揮者を務める。1990～93年ジョージア音楽協会室内管弦楽団の芸術監督および首席指揮者を務める。

1996年に大阪シンフォニカー交響楽団のコンサートマスターとして来日。2001年より関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。2005年より関西シティフィルハーモニー交響楽団の常任指揮者に就任。2006年にはジョージア国立歌劇場の客演指揮者に就任。2010年よりジョージア国立交響楽団、ジョージアン・シンフォニエッタ室内オーケストラ、トビリシ音楽院交響楽団の首席指揮者に就任。

現在、指揮者及びヴァイオリン奏者としてリサイタル、室内楽の分野で演奏活動を行う傍ら、京都市立芸術大学でヴァイオリン専攻非常勤講師、神戸大学や京都大学の学生オーケストラのトレーナーとして後進の指導にあたっている。

Q 現在、関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとしてご活躍されていますが、ヴァイオリンとの出会いは？

A ピアニストの母の影響で幼い頃から音楽が大好きでした。楽器の中でも特にヴァイオリンが好きで8歳から始めました。ヴァイオリンは、自身の中の世界を表

現できる大切な楽器となりました。

Q 音楽を通して一番大切に思っていることはなんですか？

A 自分の中にある世界を表現することです。また、音楽は芸術・文化の一つで人づくりや心づくりも大切だと考えます。

Q これからのジュニアオーケストラの指導で重点を置いていきたいことはなんですか？

A 音楽の技術的なことは後で、まずはしっかりと人づくりをして人間関係を築き、楽しんで音楽を作っていくことだと思います。“楽しむ”ということ意識して指導できればと思います。

Q 今回、初めてジュニアオーケストラを指導しての感想を教えてください。

A 第1回定期演奏会おめでとうございます。津山ジュニアオーケストラと記念すべき第1回目の定期演奏会で共演出来て本当に嬉しいです。私は、日本でのジュニアオーケストラとの共演は、今回が初めてで楽しみにしていました。初めての練習はとても楽しく、音楽に対しての皆さんの態度や集中力が素晴らしかったです。気持ちをひとつに合わせるチームワークの意識とやる気を感じて、とてもやりやすい初練習でした。楽器を演奏することは勿論、難しいことかもしれませんが、皆さんが力を合わせて楽しく練習すると、本当に素晴らしい、楽しい音楽会になると思います。

Q 3月の第1回定期演奏会の開催へ向けにお客さんへメッセージをお願いします。

A 津山ジュニアオーケストラの皆さんが自分たちの力で、そして自分自身の意思で作っている音楽をお客様に心から楽しんでもらえたらと思います。クラシック音楽、そして映画音楽やポップスの生演奏は、その時、その場でしかない美しい手作りのものですので、是非応援して楽しく聴いてあげてほしいです。演奏者の気持ちと美しい感覚の世界の表現と喜びは、演奏会を聴いてくださるお客様のためにあります。お客様が喜んでくださると演奏者にもそれが伝わり、会場にいる全ての人が幸せになることができますと思います！